

平成26年度事業報告

準拠する「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」に基づき、利用される方が安心して通えるように、かつ健全で安定的な経営を念頭に、就学児対象の放課後等デイサービスから卒業以降の生活介護・就労継続支援B型・就労移行支援まで通所支援事業に係る総合的な事業経営を行った。また、今後サービス提供において基本となる相談支援事業にも自事業所利用を問わず受け入れを行い、自法人が行っている事業、各職員が所属している事業だけでなく、福祉サービス全体を考えることの必要性を改めて感じた。

社会福祉法人に求められる公益性の確保については、平成25年度に提起された様々な構想に対して、実現に向けた取り組みを行った。そして地域を巻き込んでもちつき大会を行うなど周辺住民、施設との関係をさらに強めることができた。

処遇面では、会議、研修などにおいて障害者虐待防止法の内容の熟知と事例検討を頻繁に行い理解を深めるとともに、意思決定、権利擁護の実践を基本に日常生活を含めた中での課題の発見と対策に取り組んだ。

1. 法人が行う事業

(1) 事業種別

(イ) 第二種社会福祉事業

(ア) 障害福祉サービス事業の経営

(イ) 障害児通所支援事業の経営

(ウ) 特定相談支援事業の経営

(エ) 障害児相談支援事業の経営

(2) 種類及び名称

(イ) 生活介護 久松共働センター

(ロ) 就労継続支援B型 久松共働センター

(ハ) 放課後等デイサービス 久松共働センター

(ニ) 日中一時支援 久松共働センター

(ホ) 特定相談支援事業 久松共働センター

(ヘ) 障害児相談支援事業 久松共働センター

(ト) 生活介護 福山共働センター

(チ) 就労継続支援B型 福山共働センター

(リ) 就労移行支援 福山共働センター

(3) 管理者名

(イ) 久松共働センター 戸田 榮次

(ロ) 福山共働センター 井原 俊博

(4) 所在地

- (イ) 法人 福山市久松台3丁目1番39号
(ロ) 久松共働センター 福山市久松台3丁目1番39号
(ハ) 福山共働センター 福山市御幸町大字上岩成字稲月731番地

(5) 定員

- (イ) 久松共働センター
 (ア) 生活介護事業 20人
 (イ) 就労継続支援B型事業 20人
 (ウ) 放課後等デイサービス 10人
 (エ) 日中一時支援事業 10人
(ロ) 福山共働センター
 (ア) 生活介護事業 10人
 (イ) 就労継続支援B型事業 20人
 (ウ) 就労移行支援 10人

2. 役員の状況

- 理事長 江草 要
理事 戸田 榮次
理事 中澤 則之
理事 瀧口 清美
理事 原 勇 (平成26年11月16日逝去 退任)
理事 小迫 紀澄
理事 戸田 清二 (平成26年12月12日新任)

- 監事 江草 寛幸
監事 江草 克己

- 評議員 江草 要
評議員 戸田 榮次
評議員 中澤 則之
評議員 瀧口 清美
評議員 原 勇 (平成26年11月16日逝去 退任)
評議員 小迫 紀澄
評議員 戸田 清二 (平成26年12月12日新任)
評議員 野村 守
評議員 品川 裕見子

評議員	広川 昌彦
評議員	丸尾 富美子
評議員	高橋 宏治
評議員	三島 麗子
評議員	占部 幸一

3. 法人運営の状況

(1) 理事会の開催

(イ) 第1回理事会 平成26年5月26日(月) 20:40~21:10

- 議案1. 平成25年度 事業報告について
- 議案2. 平成25年度 決算報告について
- 議案3. 監事監査報告について
- 議案4. 福山共働センター 隣接地の貸借について
- 議案5. 福山共働センター 車両助成事業申請について
- 議案6. その他

(ロ) 第2回理事会 平成26年10月31日(金) 19:05~19:30

- 議案1. 平成26年度上半期収支について
- 議案2. 福山市土地使用貸借契約について
- 議案3. 福山共働センター 2014年度(平成26年度)
日本財団助成事業(送迎車両)申請について
- 議案4. 久松共働センター 2015年度(平成27年度)
日本郵便株式会社 年賀寄付金配分事業
(車両整備)申請について
- 議案5. 久松共働センター 就労継続支援B型事業
運営規程の変更について
- 議案6. 久松共働センター 生活介護事業
運営規程の変更について
- 議案7. 放課後等デイサービス事業 サニーふれいす
運営規程の変更について
- 議案8. グループホームについて
- 議案9. その他

(ハ) 第3回理事会 平成26年12月12日(金) 18:50~19:10

- 議案1. 経理規程の変更について
- 議案2. 福山共働センター 生活介護事業 運営規程の変更について
- 議案3. 福山共働センター 就労継続支援B型事業
運営規程の変更について
- 議案4. 福山共働センター 就労移行支援事業 運営規程の変更について

- 議案 5. 評議員死亡欠員に伴う新評議員選任について
- 議案 6. その他

(二) 第 4 回理事会 平成 27 年 3 月 28 日 (土) 19:15~19:45

- 議案 1. 平成 26 年度 補正予算について
- 議案 2. 平成 27 年度 事業計画について
- 議案 3. 平成 27 年度 資金収支予算について
- 議案 4. 福山市平成 26 年度事業所等実地指導について
- 議案 5. 広島県平成 26 年度障害児通所支援事業者実地指導について
- 議案 6. 福山市土地無償貸借契約満了について
- 議案 7. 給与規程・給与規程細則の変更について
- 議案 8. 久松共働センター 生活介護 運営規程の変更について
- 議案 9. 久松共働センター 就労継続支援 B 型事業
運営規程の変更について
- 議案 10. サニーふれいす 運営規程の変更について
- 議案 11. 人事考課規程について
- 議案 12. シャワートイレの設置について
- 議案 13. 2015 年度 (平成 27 年度) 車輛助成事業申請について
- 議案 14. その他

(2) 評議員会の開催

(イ) 第 1 回評議員会 平成 26 年 5 月 26 日 (月) 18:30~20:30

- 議案 1. 平成 25 年度 事業報告について
- 議案 2. 平成 25 年度 決算報告について
- 議案 3. 監事監査報告について
- 議案 4. 福山共働センター 隣接地の貸借について
- 議案 5. 福山共働センター 車両助成事業申請について
- 議案 6. その他

(ロ) 第 2 回評議員会 平成 26 年 10 月 31 日 (金) 18:00~19:00

- 議案 1. 平成 26 年度上半期収支について
- 議案 2. 福山市土地使用貸借契約について
- 議案 3. 福山共働センター 2014 年度 (平成 26 年度)
日本財団助成事業 (送迎車両) 申請について
- 議案 4. 久松共働センター 2015 年度 (平成 27 年度)
日本郵便株式会社 年賀寄付金配分事業
(車両整備) 申請について
- 議案 5. 久松共働センター 就労継続支援 B 型事業
運営規程の変更について

- 議案 6. 久松共働センター 生活介護事業
運営規程の変更について
- 議案 7. 放課後等デイサービス事業 サニーふれいす
運営規程の変更について
- 議案 8. グループホームについて
- 議案 9. その他

(ハ) 第 3 回評議員会 平成 26 年 12 月 12 日 (金) 18:00~18:40

- 議案 1. 経理規程の変更について
- 議案 2. 福山共働センター 生活介護事業 運営規程の変更について
- 議案 3. 福山共働センター 就労継続支援 B 型事業
運営規程の変更について
- 議案 4. 福山共働センター 就労移行支援事業 運営規程の変更について
- 議案 5. 理事死亡欠員に伴う新理事選任について
- 議案 6. その他

(ニ) 第 4 回評議員会 平成 27 年 3 月 28 日 (土) 19:15~19:45

- 議案 1. 平成 26 年度 補正予算について
- 議案 2. 平成 27 年度 事業計画について
- 議案 3. 平成 27 年度 資金収支予算について
- 議案 4. 福山市平成 26 年度事業所等実地指導について
- 議案 5. 広島県平成 26 年度障害児通所支援事業者実地指導について
- 議案 6. 福山市土地無償貸借契約満了について
- 議案 7. 給与規程・給与規程細則の変更について
- 議案 8. 久松共働センター 生活介護 運営規程の変更について
- 議案 9. 久松共働センター 就労継続支援 B 型事業
運営規程の変更について
- 議案 10. サニーふれいす 運営規程の変更について
- 議案 11. 人事考課規程について
- 議案 12. シャワートイレの設置について
- 議案 13. 2015 年度 (平成 27 年度) 車輛助成事業申請について
- 議案 14. その他

(3) 行事等実施報告

平成 26 年 5 月 13 日	監事監査
平成 26 年 5 月 26 日	理事会 評議員会開催
平成 26 年 10 月 31 日	理事会 評議員会開催
平成 26 年 12 月 12 日	理事会 評議員会開催
平成 26 年 12 月 12 日	役員懇親会

平成27年 1月29日

社会福祉法人役員研修会参加
(戸田榮次理事 戸田清二理事)

平成27年 3月28日

理事会 評議員会開催

4. 施設運営活動の状況

平成26年度末現在、法人全体で障害福祉サービスの利用者数72名、児童通所支援サービス（放課後等デイサービス）登録者42名、職員数41名である。職員数は平成25年度末より9名増加し、人員が必要とされる事業においてさらに手厚い支援が行えるよう整えた。

処遇に関しては、各利用者の個別支援計画に基づき、個々の目標達成や課題点の克服に向けての取り組みを行った。そして運営方針にもある「生活支援」「作業支援」「余暇支援」をバランスよく行うよう努めた。その中において今後サービス提供の基本となる相談支援事業の充実に取り組み、総合的な福祉サービスの提案のため自事業所利用を問わず受け入れを行い、利用者・家族等のニーズの把握とそれに合わせた各種サービス利用の実現に向けてサービス等利用計画の作成を行った。

久松・福山両事業所の活動においては、恒例行事に加えて買い物学習をはじめとした日常生活レベルの目的をもった取り組みを計画的に行い、個々の目標や課題に応じた取り組みを行った。

(1) 生活介護 久松共働センター

(ア) 運営の状況

定員20名（現員21名）

職員 管理者 1名 サービス管理責任者 1名

支援員数 14名（常勤換算）11.0名

年度当初21名で事業開始。1名病気により、夏ごろから出席が徐々に難しくなり11月に逝去。残念ではあったが、この件は有病者に対する実支援、心の支援について深く考えさせられるものであり、以後の支援の糧となった。現員に対しての1日の平均利用者数（年間）は19.5名であり、冬季の体調不良による欠席がやや目立った。こちらに関しては、定期的な健康観察、家族との密な連携により対処していく。また支援の充実を目的とした適切な障害程度区分の取得を図り、結果3名の支援区分が上がりその分職員数の増加に結び付いた。

(イ) 利用者の処遇

職員会議、処遇会議を毎月開催し、職員の人権意識を高めるとともに問題点の早期発見、解決に努めた。また個別支援計画に基づき、利用者1人ひとりの思いを大切にされた個別支援を行い、そして定期的なケース会議、モニタリングを行うことにより充実したサービスの提供

を図った。その他目の行き届いた支援を提供できるように全体を2つのチームに分けて各種活動を行った。

活動の詳細面では、軽作業や創作活動、運動プログラムを計画的、定期的に行うことにより機能の維持、向上に取り組んだ。また積極的な事業所外活動（別紙活動報告書参照）により、利用者が社会生活に適応出来るように積極的に支援を行った。

他、年2回の健康診断を行い、健康の増進を図るとともに、看護職員による個別健康管理を行いよりいっそうの健康の増進を図った。防災面では避難訓練を2回行い、防災意識を高めるように努めた。

(ウ) 活動の状況

別紙活動報告書の通り

(2) 就労継続支援 B 型 久松共働センター

(ア) 運営の状況

定員 20 人（現員 18 人）

職員 管理者 1 名 サービス管理責任者 1 名

支援員数 5 名

（常勤換算）4.5 人

利用者数は年間を通じて変化なし。平均の利用者数は 16.2 名であり、昨年度に比べて 1.3 名のマイナスとなった。原因としては新規利用者が無かったこと、冬季の欠席が目立ったことが挙げられる。よって今後は季節を問わず、利用者の状況の把握、健康チェックとそのケアに努めていく。新規利用者に関しては特別支援学校の卒業生に向けての情報提供を継続的に行っていく。職員数は、年度末3月下旬からの産前産後休暇取得者に向けて秋から1名増員した。

(イ) 利用者の処遇

職員会議、処遇会議を毎月開催し、職員の人権意識を高めるとともに問題点の早期発見、解決に努めた。また個別支援計画に基づき、利用者1人ひとりの思いを大切にされた個別支援を行い、そして定期的なケース会議、モニタリングを行うことにより充実したサービスの提供を図った。授産作業以外に生活面、健康面での支援も利用者にとって安心して通所できる事業所づくりに努めた。

他、年2回の健康診断を行い、健康の増進を図るとともに、看護職員による個別健康管理を行い、より一層の健康の増進を図った。防災面では避難訓練を2回行い、防災意識を高めるように努めた。

(ウ) 授産活動

授産作業面においては、こだま食品の作業を中心に依頼された作業を可能な限り受注し、確実に納入することによる信頼度のアップを図った。結果的にこだま食品分収入は 38,000 円のマイナスとなったが、その分施設外就労支援も含めた他の作業の獲得とバザー事業の強化に努め、収入においては対当初予算比 120%、対前年比 107.4%を計上することができた。

工賃面では、一人当たり 1 ヶ月の平均工賃は 14,566 円であり前年比 1,715 円の大幅アップとなった。広島県の掲げる目標工賃 17,300 円以上（平成 24 年度設定）に向けて、年度後半より他事業所の授産活動（自主製品生産含む）の見学を行い、次年度以降における自主製品の開発、販売に具体的に着手することが期待される。その他、作業時の衛生面とユニフォームを含めた環境整備を同時に行い、安心安全と快適な環境の追及にも力を注いだ。

(エ) 活動の状況

別紙活動報告書の通り

(3) 放課後等デイサービス 久松共働センター

(ア) 運営の状況

定員 10 人（登録 42 人）

職員 管理者 1 名 児童発達支援管理責任者 1 名
支援員数 9 名（常時 5～6 名体制で勤務）

利用者数は定員 10 名に対して、年間平均で 11.4 名（最少 4 月 10.9 名 最大 1 月 11.7 名）であり、ほぼ安定した利用率であった。また利用希望に対するキャンセル率が 5%前後と非常に高いため、キャンセル時の補充対応にも気を配った。

（※定員に対する実利用者数の緩和措置あり 1 日では定員に対して 150%、3 ヶ月平均で定員の 125%まで受け入れ可能）

平成 25 年度末において卒業による退所者は 2 名、それに対して平成 26 年度中の新規利用者数は 6 名であり、今後は新規利用者と退所者のバランスを図りながら安定的なサービス提供、また将来を見据えた事業展開の立案が求められる。

(イ) 利用者の処遇

支援の充実、安全の確保を図るために夏休みに向けて職員の増加を行った。平日の放課後利用、土曜日や長期休暇などの休業日利用と曜日や時期によって実サービス提供時間が左右される事業であるが、各日とも 5～6 名の支援体制を組むことができた。

また児童、生徒への専門的な支援を行うために、各種研修に参加した。そして同事業を行う職員の集い、放課後等デイサービス連絡協議会にも積極的に出席し、関連施設との連携、情報収集を行った。また懇談会をはじめとした学校との連携も引き続き行い、保護者、学校、福祉事業所が協力して一人ひとりについての支援を考え、取り組む体制作りがさらに進んできたと思われる。

活動内容では、体を動かす活動を主とし、その中に創作活動等もバランスを考えて組み込んだ。また集団の中においても個別の活動に目を向け工夫し、利用者各々が何らかの活動に取り組めるように努めた。

(ウ) 活動の状況

別紙活動報告書の通り

(4) 日中一時支援 久松共働センター

主に久松共働センターが休業となる第1・第3以外の土曜日を中心に機能訓練、創作活動、社会参加活動等を行った。

(5) 特定相談支援事業 久松共働センター

職員 管理者 1名 相談支援専門員 3名

新規利用者54名を加えて、70名の計画相談を担当。本格的始動から2年目をむかえ、自事業所の利用者以外の受給者証所持者にも目を向けた取り組みを行った。また、市内事業者を対象とした連絡協議会に参加し、情報の収集に加えて事例検討によるスキルアップを図るとともに適切な各サービスの活用について学んだ。今後は継続的な支援に加えて、本事業のことを利用者、家族関係者によっては周知されていない方もあるため、わかりやすい内容で説明、提案、実行ができるように相談員の共通理解を高めていく。また、他相談支援事業所、サービス提供事業所との連携も深めて、各利用者の希望する生活の実現を共に図っていく。

(6) 障害児相談支援事業 久松共働センター

職員 管理者 1名 相談支援専門員 3名

福山市からの通達、「すでにサービス利用中の児童の相談支援は誕生日を基本として今年度中にサービス等利用計画の作成を行うこと」を前提に、事業所側から声をかけながらすすめていった。最終的に29件の利用者に対する計画作成（内1件は昨年度より継続）となったが、変化の大きい学齢期につき、家族支援も含めて、今後の状況に応じたサービス利用の提案、実現に向けた動きや福祉サービスの枠を超えた支援や

情報提供も求められる。

(7) 生活介護 福山共働センター

(ア) 運営の状況

定員 10 名 (現員 6 人)

職員 管理者 1 名 サービス管理責任者 1 名

支援員数 3 名 (常勤換算) 2.1 人

年度末に 1 名の利用者増があり、現員数が 5 人より 6 人になった。しかしながら、年間平均利用者数は前年の 4.73 人から 4.63 人に減少した。利用者の日々の体調等もあり難しい部分もあるが、現員増も含めて引き続き利用者数の増加に向けて取り組んでいく。

(イ) 利用者の処遇

年度当初に掲げた個別支援計画に基づき活動の支援を行い、定期的なケース会議、モニタリングを行うことにより充実したサービスの提供を図った。

活動面では、調理実習を月に 1～2 回実施し、プール、外出など様々なプログラムを組むことで興味を広げ、充実した社会生活へと結びつけることを目指した。特に買い物や外食における金銭の受け渡しなど生活に密着した活動を多く取り入れた。

軽作業では、主に昨年度まで行っていた慣れた作業を社会参加の一環として継続して行った。

また、年 2 回の健康診断を行い、健康管理を進めるとともに、看護職員による定期的な体温測定や血圧測定を行い、より一層の健康の増進を図った。

防災(消防・避難)訓練を 2 回行い、防災意識を高めるように努めた。

(ウ) 活動の状況

別紙活動報告書の通り

(8) 就労継続支援 B 型 福山共働センター

(ア) 運営の状況

定員 20 名 (現員 17 人)

職員 管理者 1 名 サービス管理責任者 1 名

支援員数 3 名 (常勤換算) 3.0 人

就労移行より 6 名の受け入れがあり、前年度 10 人より 16 人の現員でスタートした。年度末に 1 名の増員があり、最終的には 17 人の現員となった。年間平均利用者数も 14.6 人に増加し、安定した通所

状況の確保に努めた。

(イ) 利用者の処遇

年度当初に掲げた個別支援計画に基づき活動の支援を行い、定期的なケース会議、モニタリングを行うことにより充実したサービスの提供を図った。

主に作業における課題点を見つけ、得意分野を伸ばし、苦手分野を支援や補助によって少しでも克服し自信に結び付けられるよう努めた。体力づくりにも積極的に取り組み、日々のウォーキングやリズム体操をはじめ近隣の公民館などで各種スポーツに取り組んだ。

また、年2回の健康診断を行い、健康管理を進めるとともに、看護職員による体温測定や血圧測定を行い、より一層の健康の増進を図った。防災(消防・避難)訓練を2回行い、防災意識を高めるように努めた。

(ウ) 授産活動

作業の受注先は事業開始時に比べると倍増したが、受注量は横ばい状況だった。しかし、新しい作業へのチャレンジによる可能性の拡大と、個々にあった作業をみつけ持続力を養うこと等、利用者それぞれの課題やニーズに沿った授産活動を行った。

しかしながら、安価な下請け作業も多く、工賃の増加には繋がっていないこともあった。また主力の受注先であるヒロボ一(株)からの仕事量が減り、他の受注先の拡大及び受注内容の精選についても検討していかなければならない。

(エ) 活動の状況

別紙活動報告書の通り

(9) 就労移行支援事業 福山共働センター

(ア) 運営の状況

定員10名(現員12人)

職員 管理者 1名 サービス管理責任者 1名

支援員数 3名 (常勤換算) 3.0人

年度末の現員としては12人であるが、実質には8人の現員での活動だった。就労移行支援事業所の場合には、2年間という有期限があり、なおかつ外部に対する就職移行もあって、現員数の変動は致し方ない部分であるが、運営的にも継続的な利用者確保は必要である。

昨年度の就職者はA型事業所に1名だったが、今年度より一般企業への就職しかカウントされないために一般企業就職者の輩出が必要である。

(イ) 利用者の処遇

年度当初に掲げた個別支援計画に基づき活動の支援を行い、定期的なケース会議、モニタリングを行うことにより充実したサービスの提供を図った。

特に就労移行事業所でもあるので、作業面における課題点を見つけ、得意分野を伸ばし、苦手分野を支援や補助によって少しでも克服し自信に結び付けられるよう努めた。

また、年2回の健康診断を行い、健康の増進を図るとともに、看護職員による体温測定や血圧測定を行い、より一層の健康の増進を図った。防災(消防・避難)訓練を2回行い、防災意識を高めるように努めた。

(ウ) 授産活動

作業の受注先を固定化し、受注量の増大と工賃単価のアップを図った。また、一般就労を目標としてステップアップすることなど、利用者それぞれのニーズや思い大切にして社会参加の意味をも啓発しながらの授産活動を行った。

(エ) 活動の状況

別紙活動報告書の通り

5. 決算書類の目録

(ア) 財産目録

(イ) 貸借対照表

(ウ) 資金収支計算書

(エ) 資金収支計算内訳書

(オ) 事業収支計算書

(カ) 事業活動収支内訳書

(キ) 固定資産台帳

(ク) 付属明細表一式